

日本教職大学院協会研究大会開催！宇大の取組全国に！

平成27年12月5日・6日の両日にわたって、一橋大学一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋）において、日本教職大学院協会主催の研究大会が開催されました。この大会では、1日目に「実践研究成果公開フォーラム」が、そして2日目に「パネルディスカッション」と「ポスターセッション」が行われましたが、そのすべてで宇都宮大学教職大学院の取組を情報発信することができました。開設してまだ8ヶ月であります、多くの教職大学院から好意的な反応を得ることができました。また、取組内容に関しての積極的な質問もいただきました。今回はその一端について、話題にいたします。

◆協働による学びを前面に

1日目の「実践研究成果公開フォーラム」では、「実習科目『教育実践プロジェクト』の充実に果たす『リフレクション』と『電子ポートフォリオ』の役割」と題して、宇大による40分の発表と50分のフロアとの意見交換が行われました。松本敏教授（専攻長）からは宇大の取組における特色や独自性について、そして近藤秀人准教授からはチームによる長期実習とリフレクションの実践事例について発表がありました。

複数の教員及び院生でチームを組んで、長期実習を行ったり、それにともなってチーム全体でふり返りを行ったりする手法はまだ一般的ではありません。また、実習報告書をインターネット上で教員・院生全員で共有できる仕組みを構築しているのも宇大独自の取組です。協働体制で教員としての力量形成を図ろうとする宇大の姿勢に、他大学からは好意的な発言が多く寄せられました。

開にもなります。長期実習の豊かな可能性を感じることものできる発表となりました。



◆教職大学院における教科教育

2日目のパネルディスカッションのテーマは「教職大学院における教科教育の在り方をさぐる」でした。5名のパネリストの一人として登壇した久保田善彦教授は宇大の現状をふまえて、「教育学部の先生方とスクラムを組みながら教科教育の更なる充実を図ることが可能なのではないだろうか。」と提言しました。教職大学院における教科教育の充実は焦眉の課題です。

「教職大学院で学ぼうとする院生の様々なニーズに応えられる大学院であるためには何が必要か」——宇大教職大学院では引き続きこのテーマを重要課題として位置付け、模索し続けていくつもりです。

◆現職院生による実践発表

2日目のポスターセッションでは、國井朱美・澤田慎一両現職派遣院生から、宇都宮市立石井小学校での長期実習について、具体的な実践発表がありました。実習校で多層的な関わり方をすすめていくことによって、実に多くのことを学んで行く様子がいきいきと語られたポスターセッションとなりました。現職教員の立場では見えなかったこと、教職大学院生だからこそ手に入れることのできた力、気づきや発見の重要性等が改めて発表され、共感の輪が広がっていきました。

教育実践プロジェクト（長期実習）は、もちろん学びの環境整備を丁寧に行ってくださいしている実習校の管理職を始めとする多くの先生方のお陰によるところが大きいのですが、院生たちの動き方次第では、「こんな学びにも広がっていくのか。」と思えるような展

平成27年度 宇大教育実践フォーラムのお知らせ

以下の要領で宇大教育実践フォーラムが開催されます。教職大学院生の発表もあります。多くの方の参加をお待ちしております。

- | | |
|-------------|----------------------|
| 1 日 時 | 平成28年2月13日(土) 9:30～ |
| 2 会 場 | 宇都宮大学教育学部教室等 |
| 3 日 程 | [抜粋] |
| 9:30～12:00 | 教職大学院教育実践プロジェクト発表会 |
| 13:00～15:40 | 教育実践について語り合うラウンドテーブル |

- * 午前中は宇大教職大学院の教育実践プロジェクト（長期実習）についての実践報告を行います。連携協力実習校単位での発表を教職大学院生が全員で行います。この機会に是非、院生の口から語られる教職大学院での学びの一端をお聞きになってください。
- * 午後は参加者が5人程度のグループに分かれてテーブルを囲み、授業改善や学校改革などの教育実践を率直に語り合い、意見交換を行います。経験を元に相談し合えるような雰囲気醸成を目指しています。ちなみにラウンドテーブルにも教職大学院生全員が参加します。
- * 上記日程には記載しませんでした、他大学の先生方からラウンドテーブル等を総括して話をしてもらう機会も設けてあります。

「アクティブ・ラーニング」

教育実践高度化専攻教授 久保田 善彦

アクティブ・ラーニングとは、「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学習者(学修者)の能動的な学習(学習)への参加を取り入れた教授・学習法の総称(文部科学省『用語集』)」とされます。

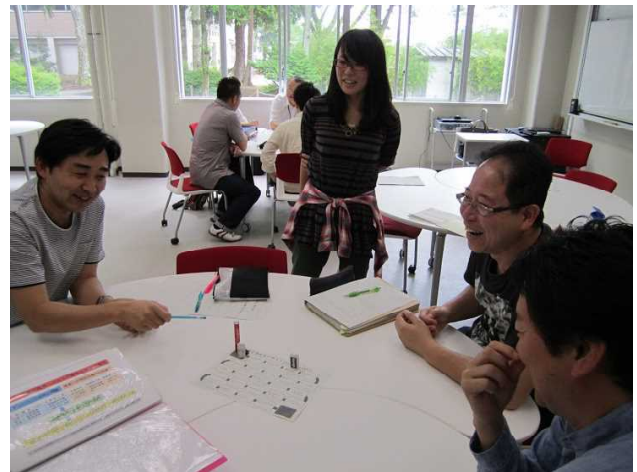
そもそも学習とは何でしょう。例えば、授業で「タンポポの花の作り」を学習するとしましょう。子どもたちは、花は黄色い、ふーと息をかけると白い綿毛を飛ばす、校庭に咲いている、国語の教科書でも習ったなど、タンポポに関するいろいろな知識を持って授業に臨みます。子どもたちは、すでにある様々な知識ネットワークの中に、今日の授業で習ったタンポポの花の作りを組み入れていきます。「学習」とは、授業や生活の中で得た知識や経験を、自分が既に持っている知識(既有概念)と関連付け、新しい知識の繋がりを作ることです。

新しい繋がりを作るには、自分自身の思考に積極的(能動的)に働きかける必要があります。能動的に思考することから、アクティブ・ラーニングと呼ばれます。繋がりのある知識は、しっかりと定着します。更に、多方向に繋がりを持つことで、別の単元や他教科、生活の様々な場面で活用できる知識、生きて働く知識へと発展していきます。それに比べ、暗記は、繋がりのない知識を頭の中に詰め込むようなものです。繋がりのない知識は短時間で消えてしまいます。

つまりアクティブ・ラーニングは、単に学習者が活発に行動・活動しているだけではありません。学習者が自らの思考に能動的に働きかけ、新しい繋がりを作る事が大切なのです。一段落目の定義には“教授・学習法”とあるため、参加型の学習形態や技法にばかり気をとられてしまいがちですが、本来の目的を意識した学習デザインが必要になります。

《シリーズ:教職大学院授業紹介④「集団づくり論」(選択科目[前期])》

「集団づくりとは何か」——授業では、まずこの問いについて、民主的な手法で考えることからスタートしました。学校で子どもたちが過ごす様々な集団は、自他のよさを認め合える人間関係を相互に形成して、一人ひとりの存在や思いが大事にされ、安心して生活できるものでなければなりません。そういったことを改めて体感するうえでも、この授業では参加型・体験型の学びを重視するとともに、とりわけ声の大きい人だけに引っ張られてしまわないような大人の学びを重視しました。学部を卒業したばかりの学卒院生の純粋なまなざしと、教師としての揺るぎなき実践をもつ現職院生との経験とが化学反応を起こしつつ、同じ立場で、集団づくりについて多角的に考え、集団づくりについての実践的な力を手に入れる、それこそが、この授業全体を貫いた一つの目標でした。

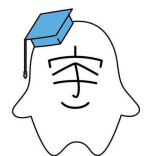


内容は実に多彩で、集団づくりの教育実践史、特別活動の理念といった理論的な領域から、附属小での授業研究会、ソーシャルスキルトレーニングやグループエンカウンター、そしてQ-U式学級集団づくりといった極めて実践的な領域まで扱いました。模擬実践を行うなど、何よりも理論と実践の相互環流的な関係性を重視してきたと言えます。

特に見事であったのが、相手と目的、そして条件等を明確にした「集団づくりリーフレット」の作成(左写真参照)でした。学びの成果をリーフレットづくりに直結させることで、結果として情報の厳選方法や効果的な情報発信の手法といった政策提言の在り方も学ぶことになりました。

ほぼ毎時間作成していた院生の手による「ふり返しシート」からも、院生がかなりの実践力を手に入れたことが推測できます。今は、その力が、やがて多くの学校現場で花開くことを、切に希望しているところです。

(近藤 秀人)



《編集・発行》宇都宮大学大学院 教育学研究科 教育実践高度化専攻(教職大学院)

〒321-8505 栃木県宇都宮市350番地 Tel: 028-649-5242 <http://www.edu.utsunomiya-u.ac.jp/koudoka/index.html>

◇教職大学院Facebook: <https://www.facebook.com/uuptnet> ※院生が編集し、教員が管理しているFacebookです。